

魚とコインを肴に珈琲憩、 収集に終活なし(一)

「コインの水族館」 著者 木谷 浩

魚類の描かれる「コイン」の「地域性、地理

的分布」について、三年半の連載を半年前に終

えました。偶然にも、その期間は新型コロナウ

イルスの流行から、その終息期にはほぼ一致し、

同時に地球も一回りしたことになります。こ

れで三度目の地球一周。とても自費で世界一周

できる余裕はないのですが、最初の一回目の時

に船員として、その二回目は業務出張で、そし

て前回は運良く？ 訪問した場所のコインを辿る

様な誌上の世界一周旅行だったと言えます。改

めて地図を広げて見るに、これまでに足をつけ

た国は六八カ国程度あり、また魚類の描かれる

コインは一三〇カ国近くあるので、その半分程

度に足をつけたことになりました。かつての同僚

たちには、「俺が訪問した国はお前より多いけど、

魚が描かれるコインは一度も見ただこともない！」

と無知を憚らない酒席での発言もありました。

そんな輩もいる反面、同僚の中には一〇年経っ

た今でも「タシカ？ フィジーのコインを進呈し

たよナ……」の一言をもって、飲み代を「こち

ら払い」にされる？ 嬉し悲しのケースもありま

す。

画像1、フィジー五セント(二〇二二)、現

地名ヌガ・ロロ、和名ヒクアイゴ、体色は黄

色で、頭部は黒と白の模様、「火を吹く」様に口

が突き出ているとの表現は写実性に欠けた和名

で、むしろ日本的なイメージでは「ヒョットコ」

が近いかと思われます。コインに記されるヌガ・

ロロはローカルネームらしく、コインをもらっ

た同輩に電話したら、「ヌガは現地名でアイゴ、

ロロは不明。沖縄でゴマアイゴを食べた」と教

えてくれました。さすが、遊び呆けていても、

魚だけには鋭い観察・知識、持つべきは同業同

窓の友人です。その後、直ぐにメールで「ロロ



画像 1

は鼻」と情報を追加してくれました。我国ではヒョットコの口ですが、フィジーでは口でなく鼻に見立てるところが、彼れの違いで面白い！

コインのヌガ・ロロは観賞魚として高い人気を誇るこのことなので、重要な観光資源として

コインの舞台に登場するのも一理あります。愚

生の田舎では、アイゴの幼魚の群れが港内で観

察できます。釣り上げて下手に掴むと刺される

し、独特の匂いがあるので、子供でも釣り遊び

の対象にはしませんが、成魚は美味とされます。

面白いのは、英名が foxface rabbitfish とあり、

陸上動物が二つ「fox と rabbit」も重なった名前

に、疑問符が浮かびます。アップル社製品に搭

載されているバーチャルアシスタントの「Si

ri」さんに聞いてみると、「foxface」は「きつ

ね顔」との事。これは美人の代名詞になるくら

いで、小顔で洋風美人のイメージ！ そんな魚な

ら食指も動きそうです。さらに、「rabbit」はい

わゆるウサギですが、最近では整形パターンのメ

ニューに「ウサギ顔」もあるようで、丸顔小口

の和風美人のイメージ！ です。そのイメージを